



小林一茶の 近代へのまなざし

俳諧師として有名な小林一茶の人生から

「逞しさ」を学び、

今を生きる私たちへの

「ヒント」となることを

目標とします

12月4日から毎週日曜

3回講座

1回のみ
受講もOK!

八洲学園大学 教授 中田 雅敏

専門分野、研究テーマ：文学、近代文学の研究・芥川龍之介の作品論と作家論

【八洲学園大学 正規担当科目】

生老病死と村社会 / 敗者の人生と文学 / 人生の諸相と文学 / 俳句と俳文Ⅰ / 作家と作品

◆中田水光の俳号で、俳句四季（東京四季出版）、俳句（角川学芸出版）、各種新聞にて多数作品が掲載。また句会「雅楽谷（うたや）」を主宰。

講師プロフィール

お問い合わせ

 **八洲学園大学** 公開講座担当
TEL 045-317-4401（平日土日祝 9:00～17:00）

Q やしま学園大学

検索

www.yashima.ac.jp/univ/



講座 紹介

小林一茶は「すずめの子 そこのけそこのけ お馬が通る」「春風や 牛に引かれて 善光寺」など生き物への愛情を表した句が特徴の江戸時代を代表する俳諧師の一人です。現在でも愛される句を世に送り出した一茶ですが、その生涯は、幼少期の継母との不仲、遺産相続争い、子どもや妻との死別、貧しさや病気など、波乱の連続でありました。また、幕藩体制が爛熟退廃で犯罪、略奪が横行し、地方の自治体も混乱をしていたが、一茶はその時代に36年間地方行脚を続け、信濃に定住してから一茶調と言われる俳諧を築きました。そうした状況であっても本人は「飄々としていた」と言われています。なぜ一茶は、そのような生き方ができたのでしょうか。

第
1
回

2022/12/4 日 13:00 ~ 14:30

時代背景と作品

小林一茶の生きた時代背景・作品から一茶の考え方を学びます。

第
2
回

2022/12/11 日 13:00 ~ 14:30

三人の俳諧師 — 芭蕉・蕪村・一茶 —

芭蕉・蕪村・一茶の三人が近世俳諧を代表する俳諧師と言われています。それぞれの俳諧師の特異な人生を比較してその特徴を考察します。

第
3
回

2022/12/18 日 13:00 ~ 14:30

近代俳句の開祖

明治以降の俳諧を「近代俳句」と言い、正岡子規が開拓したと言われていますが、実際は小林一茶の俳諧をもって近代俳句の開祖と言えます。

受講方法

◎インターネット受講のみ

【ライブ受講】決められた日時に受講。不明な点があればチャットを活用してその場で質問可能です。

【オンデマンド（録画）受講】

※受講生はカメラ・マイク不要です。

受講料

各回 2,000 円（学生の場合、まとめた申込で 5,000 円）

※オンライン決済可能。詳細は申し込み後のメールでご案内します。

詳細・
お申込みは
こちら

🔍 やしま学園大学 公開講座

検索

または右の二次元コードからお申込み下さい。



申込期限 2023/2/17 (金)

入金期限 2023/2/24 (金)

受講期限 2023/3/31 (金)